

EDU PONT

エデュポン

2014
spring
vol. 1

座談会

私たちが出会った 子どもと保護者

今さらきけない! 教育問題

「教育委員会制度」とは?

CAMPAS
SNAP

【関東編】

東京学芸大学、早稲田大学

自分の大学の
好きなところは?

【関西編】

兵庫教育大学、大阪教育大学

学生生活で一番
ハッピーな時は?



早稲田大学
社会科学部在学中

宮崎香蓮さん

女優

Content

03 教育リレーコラム

内田 樹さん

教員であるための唯一の条件は「教育の奇跡」を信じていること

05 活躍する先輩たち

北井宏昌さん

子どもの成長を間近で感じられる教員という職業の魅力

06 座談会

私たちが出会った子どもと保護者

10 学長が語る

村松泰子さん

地域社会と協働しより良い教育環境を模索

11 データで見る教育現場

知っていますか？

自分たちが進む教育現場の現状

12 今さらきけない教育問題

「教育委員会制度」とは？

樋口修資さん

14 教員が薦める名映画

学生にこそ感じてほしい「スタンド・バイ・ミー」の魅力

岡島真砂樹さん

17 表紙の人インタビュー

宮崎香蓮さん

仕事も勉強も両立して悔いのない学生生活に

18 キャンパススナップ

自分の大学の好きなところは？

学生生活で一番ハッピーな時は？

20 職務としての学校

教育現場を支える教員の

「働きがい」の高さ

22 大学生おすすめ

チエーン店グルメ

サイゼリヤ編



教員であるための唯一の条件は「教育の奇跡」を信じていること

「教育リレーコラム」二回目は、武道家でありながら数々のエッセイを世に送り出すなど、多くの若者も私淑する内田樹さん。今回は、「教員志望の学生に向けて」をテーマに寄稿いただきました。



内田 樹さん (うちだ・たつる) 1950年東京生まれ。武道家。神戸女学院大学名誉教授。凱風館館長。著書に『レヴィナスと愛の現象学』、『ためらいの倫理学』、『日本辺境論』(2010年新書大賞)、『私家版・ユダヤ文化論』(第六回小林秀雄賞)など。

教 員志望の学生に対して、教員になる前に伝えておきたいメッセージを、というお題を頂いた。30年あまり教員として教壇に立ってきた経験から若い方に言いたいことはたくさんあるけれど、他の人が言いそうもないことを一つだけお話ししたい。



教壇に立つための資格は一つしかない。それは学位や免状を持つていないことでもないし、教科についての知識を持つていないことでもない。教員であるための唯一の条件は「教育の奇跡」を信じていることである。

「教育の奇跡」とは「教員は自分が知っている以上のことを教えることができる。自分ができ

る以上のことを子どもたちに達成させることができる」という「出力過剰」のことである。別に「奇跡」と力むほどのことでもない。スポーツの世界で「名伯楽」と呼ばれる監督やコーチは必ずしも名選手ではなかったことは誰でも知っている。イチローを育てた仰木彬は現役14年で、生涯打率は2割2分9厘、本塁打合計70本(シーズン5本)というプロとしては凡庸な記録を残している。だが、世界的なプレイヤーを原石のうちに発見し、その才能の開花を支援し、彼自身ができなかったことを実現させた。

もし教員が自分の知っている知識や技術しか伝えられないのだとしたら、子どもたちは教員よりも知識においても技術にお





北井宏昌さん
1987年兵庫県生まれ。2006年3月、兵庫県内の公立高校を卒業し、同年4月に高知大学教育学部に入學。09年、教員採用試験に合格し、10年から兵庫県芦屋市立潮見小学校教員として勤務。好きな言葉は、「夢は必ず叶う」「努力は報われる」。

子どもの成長を 間近で感じられる 教員という職業の魅力

芦屋市立潮見小学校教諭

北井宏昌さん

活躍する
先輩たち
VOL.1

小 学校の時の担任に影響を受け、教員を志したのですが、迷いがなかったとは言いません。大学時代、4年間続けた飲食店のアルバイトがとても楽しく、「社員にならないか？」と誘われてもいたので、採用試験の日程が近づくにつれて悩みました。

でも、4年時に教育実習で教えた高校生たちの「絶対に先生になつて帰って来てね！」という声を思い出して、初志貫徹することができました。

小学校での教育実習では、大失敗も経験しました。実習初日、入念に指導案を確認して授業に臨んだものの、冒頭いきなり指導案から外れた質問をしてしまい、その動揺から中途半端なままに授業が終了してしまつたのです。「こんなはずじゃなかった」と、授業後、周りの人に声が聞こえないよう我慢しましたが、悔し涙が止まらず、泣きながら、子どもたちの様子を見ていたものです。

その経験から、教員になつてからも、毎時間、どんな時も欠かさず教材研究をし、自信を持てるようになってから授業に臨むように心がけています。

教員一年目、赴任先の小学校で3年生の担任を任せられました。同学年の他の2クラスの担任はベテランの先生方。「経験もないのに、同じように先生と呼ばれていいのか」と、とても大きな不安を覚えました。でも、教室の入り口に掛かった「北井学級」と書かれた教室札、「先生！」と呼び駆け寄ってくる子どもたちの声で自覚に目覚めました。

今年で4年目になり、教員という職業の醍醐味を味わっています。授業中、子どもたちが予想以上の反応を示してくれることがあります。例えば、算数が苦手な子どもが、「えー、もう授業終わりの、もっとやりたーいよ！」などと言ってくると、授業の疲れもふっとびます。

教員の仕事の最も大きな魅力は、子どもたちの成長を間近で感じられることだと思うのですが、同時に大きな責任も感じています。子どもたちが小学校時代に体験したことは、将来、様々な場面で生きてきます。教員とは、子どもたち一人ひとりの将来に影響を及ぼす職業であるということをお忘れはならないと思っています。

教員を志す学生のみならず、採用試験のことが気になっていると思います。すでに非常勤として学校現場で働いている人にも、現役学生には不利だと言われていますが、学生には圧倒的に「時間」がありますから、筆記や面接対策にあてられます。面接では、勤務経験者には、「どんな事をしてきたか」と、経験内容を聞く質問が多いようですが、現役学生には「どんな教員になりたいか」というように志を問う質問が多いようです。そんな時は、若者らしく、自分の持つ理想を熱く語ってもらいたいと思います。きっとそれが面接官にも伝わるはずですよ。



同じ夢をめざす仲間と
今しかできない経験を!



「EDUPONTエデュポン」は、学校や地域という枠を超え、さまざまな形でこれから「教育」を担っていく学生のみなさんを応援するコミュニティマガジンです。媒体の制作を通じて、全国の教育学部生の交流の場、学生が自由に「志」を抱き、行動に移すための有益な情報や活躍の場を提供することをめざしています。「EDUPONTエデュポン」の制作に加わってくれる全国の教員志望の大学生のみなさんの応募を心よりお待ちしております!

EDUPONT 大募集!

エデュポン 大学生特派員

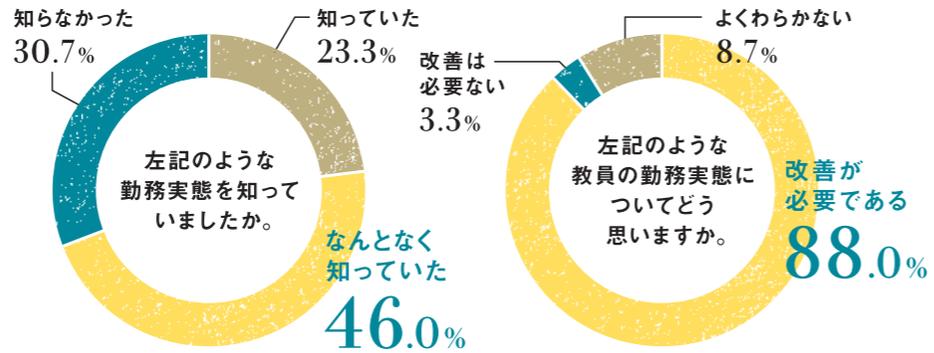
【応募条件】
教員志望もしくは教育に興味のある大学生

【活動内容】
①年2回程度の編集会議への出席*1
②編集会議で担当が決まった企画の企画立案、取材、原稿作成*2
*1:編集会議は東京で開催。往復交通費等は「社会応援ネットワーク」が負担いたします。
*2:取材経費(交通費、宿泊費等)は「社会応援ネットワーク」が負担いたします。実働内容に合わせ、薄謝ですが謝礼もご用意しています。

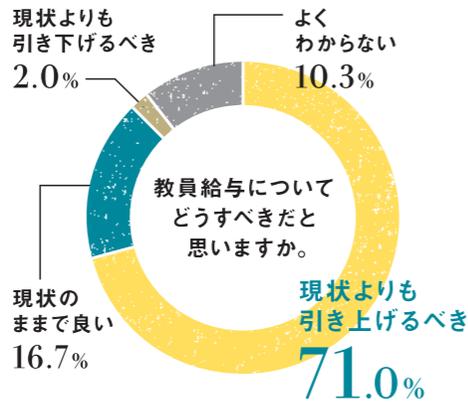
【応募方法】
E-mailにて、件名に「エデュポン大学生特派員参加希望」、
本文に①氏名 ②大学名 ③学部学科 ④学年
⑤電話番号を記載の上、
edupont@shakai-ouen.comまでご応募ください。
(なお、応募状況によってご希望に沿えない場合もあります。ご了承ください。)

社会応援
ネットワーク

教員の時間外勤務は、1人当たり月平均42時間。
(平成18年、文部科学省調査)
教員の病気休職者は、2011年度8,544人。
 そのうち61.7%にあたる**5,274人**が**精神疾患**によるもので、
 在職者に占める割合は約0.6%
(10年間で約2倍)となっています。

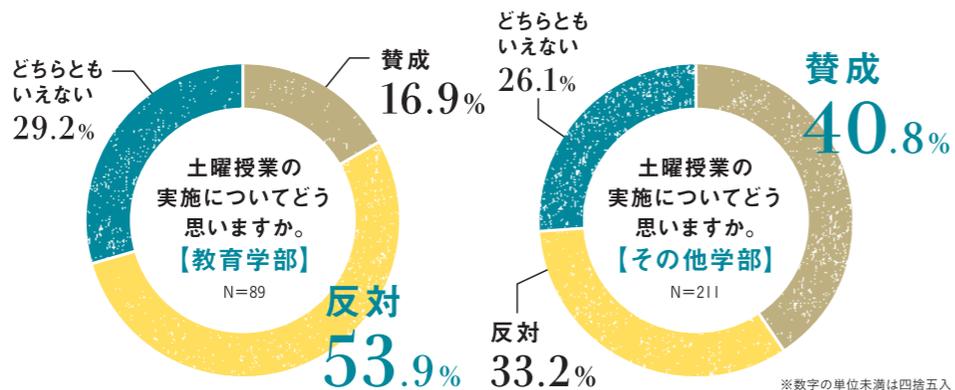


教員給与は、人材確保法(※1)の規定で一般行政職給与よりも優遇されることになっています。しかし、時間外勤務を含む時給換算額で比較した場合、**教員給与は一般行政職給与よりも13ポイント減。**(※2)



※1 / 学校教育の水準の維持向上のための義務教育諸学校の教育職員の人材確保に関する特別措置法
 ※2 / 一般行政職を指数100.0とした場合、小中学校教員は87.0 (文部科学省調べ：平成13～17年度平均)

日本では、2002年度から全ての土曜日を休業日とする**完全学校週5日制**が実施されていますが、文部科学省では、「土曜日を必ずしも有意義に過ごせていない子どもたちも少なからず存在する」との指摘があることなどから、教育委員会が必要と認める場合、土曜授業を実施することが可能であることを明確にしました。



※数字の単位未満は四捨五入

これらの問題は、教員をめざす上で避けては通れない。自分なりの回答を出し、今回の調査結果と比べてみてはどうだろうか。

「土曜授業の実施」に「賛成」と回答したのは、教育学部の16.9%。主理由は、「学力向上につながる」というもの。一方、53.9%が「反対」とした教育学部生の意見には、「授業日を増やしても解決しない問題がある」といったものが目立った。

「給与実態」について、「現状よりも引き上げるべきだ」との回答が全体の7割。「仕事量に対して報酬が低い」というような、前述の勤務実態と重なる意見が多かった。

昨日の教員の勤務実態について「改善が必要」が9割

年8月、社会応援ネットワークは教員志望の大学生300名を対象に意識調査を実施。今回は、労働環境に関する設問に絞って紹介したい。

教員の「勤務実態」について、「知っていた」「なんとなく知っていた」と回答したのは全体の約7割。さらに実態に対して、「改善が必要である」と回答したのは約9割に上る。理由として、「教員一人ひとりの負担を減らすべき」といった、仕事量の多さを憂えている意見が挙げられた。

東

京学芸大学はこれまで、優秀で質の高い将来の教育現場の中核となるような教員養成に力を入れてきました。学校教育全体に目を向け、日本の教育そのものの質を向上させていく役割を担ってきたと考えています。

日本の教員養成制度においては、理学部や文学部など、教育学部以外の学部でも教員免許を取得することは可能です。しかし、「教育とは何か」「学校とは何か」について深く学ぶという点において、教育学部は他の学部 비해、大きなアドバンテージがあります。

たとえば本学には敷地内に附属幼稚園、小・中学校があるため、学生たちは子どもたちを日々、目にしていますし、毎年、学園祭には大勢の子どもたちが訪れます。こうした日常的に子どもたちと関わり合える環境の中、学生たちの間に自然に「子どもを育む」という意識が育っていきます。子どもと一緒に遊んだり、絵本の読み聞かせや学習支援をしたりするなどのサークルが本学に多数あるのは、そうした意識の現れであると思います。

もちろん、教員になるためには、教科指導をする上での専門知識が必要です。応用の効く学び方や研究の仕方をも身につけてもらいたいと考えています。そのため、本学では原則として卒業論文は必修です。一人ひとりが自らテーマを探し、研究分野に応じた方法論で探究するという経験が、とても役に立つだろうと思うのです。

これから教員をめざす学生には「頼る力」も必要だと感じています。今、教員に求められることがますます多様化し、何もかも一人でこなすというのはもはや不可能。しかし一方で、少子化や世代構成の変化から、中堅教員が減少し、同僚の教員に頼れる環境ではなくなってきています。ですから、これからは学校という狭い世界だけでなく、地域社会と協働してより良い教育環境を築いていけるような人材を育成していくことが、教育学部に課せられた大きな使命でもあると考えています。



学長が語る vol.1 東京学芸大学 編

地域社会と協働しより良い教育環境を模索

東京学芸大学長 村松泰子さん

「教育の総合大学」としての東京学芸大学は、これまでどんな役目を果たし、今後どのようなビジョンを描くのか……。村松泰子学長に語っていただきました。



Profile
 1944年東京生まれ。1967年東京大学文学部社会学科卒業。67～91年NHK放送文化研究所勤務。在職中の84年に上智大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。91年より東京学芸大学教育学部教授、2006年より理事・副学長。2010年より東京学芸大学学長に就任。